



Appleと教育

教育機関向けデータとプライバシーに関する概要

教育は、常にAppleのDNAに組み込まれてきました。Appleは、すべての教室に変革をもたらし、すべての生徒の学習意欲を高める力がテクノロジーにはあると信じています。Apple製品は、教師のみなさんの教え方と生徒の学び方の幅を広げるように設計されており、みなさんが大好きなデバイスで、パワフルなアプリケーションと生徒を引きつけるコンテンツを提供しています。Appleはまた、生徒が学習体験を通じて作成、保存、およびアクセスするデータを保護するための、セキュリティとプライバシーの確保がいかに重要かということも認識しています。

セキュリティとプライバシーは、Appleのすべてのハードウェア、ソフトウェア、サービスのデザインの基盤です。Appleの統合的な取り組みは、体験のあらゆる局面にセキュリティとプライバシーが内在する仕組みを作りだしています。この取り組みでは、教職員や生徒のみなさんなど、教育機関に携わるすべてのユーザーのプライバシーとセキュリティが考慮されています。

さらに、Apple School Manager、Managed Apple ID、Shared iPadなど、教育に特化してデザインされた機能やサービスも開発しています。これらの機能は、共通の統合的な取り組みに加え、生徒や教育機関に固有のセキュリティとプライバシーのニーズを考慮して開発されています。

本概要では、Managed Apple IDとAppleの関連する教育向け機能およびサービスによって、生徒のデータとプライバシーがどのように保護されているかを説明します。この概要を使えば、教師のみなさんはAppleがどのように生徒のデータを保護しているかを保護者に説明することができます。

生徒のプライバシーに関するAppleの取り組み

広告やマーケティングに使う目的で、Appleが生徒のみなさんの情報を追跡することは決してありません。それを共有したり販売することはありません。Eメールの内容やウェブのブラウズ履歴に基づいて生徒のプロファイルを構築することはありません。また、教育向けサービスを提供する目的以外で生徒の個人情報を収集、使用、開示することはありません。生徒向けのターゲティング広告に対し、Appleが生徒の個人情報を販売することも、生徒の情報を開示することもありません。

Appleの取り組みのさらなる証として、[Appleプライバシーポリシー](#)および[Apple School Manager契約](#)を作成し、ユーザーの情報を収集、使用、開示、転送する方法を規定しています。また、Appleは[Student Privacy Pledge](#)に誓約しています。

Apple School ManagerとManaged Apple ID

Appleでは、あらゆる規模の学校および教育機関に対して、iPadおよびMacの導入を支援するサービスを提供しています。これらのサービスは、導入前、導入中、導入後に、学校や生徒のデータが一貫して保護されるようにセキュリティとプライバシーを考慮して開発されています。

Apple School Managerは、IT管理者が学校にiPadとMacを導入するために必要なすべてがそろった、無料のウェブベースのサービスです。Apple School Managerを使うと、コンテンツの購入、モバイルデバイス管理 (MDM) ソリューション内での自動デバイス登録の設定、生徒と教職員のみなさんのアカウントの作成、iTunes Uコースの設定などができます。

Apple School Managerの中心になる機能は、学校が管理するManaged Apple IDを作成する機能です。Managed Apple IDは新しい形のApple IDです。これを利用することで生徒たちはiCloud、iTunes U、Shared iPadにアクセスでき、同時に学校側は必要なコントロールを維持できます。Managed Apple IDは教育目的専用です。

生徒にデバイスを提供する学校でManaged Apple IDが教育目的以外で使用されないように、AppleはManaged Apple IDの特定の機能を無効にしています。生徒はApp Store、iBooks Store、iTunes Storeで何も購入することができません。また、Apple Pay、友達を探す、iPhoneを探す、iCloudメール、HomeKit、iCloudキーチェーンも無効になっています。FaceTimeとiMessageもデフォルトで無効になっていますが、管理者によって有効にできます。

Apple School Managerを使うと、Student Information System (SIS) や学校のディレクトリサービスから書き出したCSV形式ファイルから必要なデータのみ読み込んで、すべての生徒や教職員のみさんのManaged Apple IDを自動的に作成できます。各ユーザーアカウントは、ソースからの情報を読み取り専用にして作成されます。Managed Apple IDの識別子および関連付けられたパスワードなどの追加情報は、Apple School Managerの中でアカウント情報に追加されます。データがSISに書き込まれることはありません。

各ユーザーアカウントには以下の関連情報が含まれます。これらの情報はアカウントリスト内、またはアカウントを選択した時にも表示されます。

- 当該アカウントに固有の英数字のID
- 姓、ミドルネーム、名
- 学年 (指定された場合)
- 登録クラス
- Eメールアドレス (指定された場合)
- 役割
- 場所
- ソース
- 作成日
- 変更日

Managed Apple IDは、学校が作成して割り当てるので、学区内の全員に対して、パスワードのリセット、アカウントの検査、役割の定義が簡単にできます。管理者がアカウントを検査する時やパスワードをリセットする時、Apple School Managerによってそのアクションのログが必ず記録されるので、アクティビティの記録が残ります。

Managed Apple IDはパスワードのオプションとして、シンプルで4桁の数字から複雑な英数字の文字列までサポートします。アカウントを最初に読み込んだ時や作成した時は、Apple School Managerによって仮パスワードが作成されます。この仮パスワードは、Managed Apple IDで最初にサインインするアカウントのユーザーのためのものです。サインイン時にパスワードを変更する必要があります。仮パスワードからの変更後は、生徒が選択したパスワードがApple School Managerに表示されることはありません。生徒は、学校が管理していないデバイス (自宅のデバイスなど) にサインインして、学校の課題にアクセスすることもできます。これを行うには、Managed Apple IDとパスワード、およびApple School Managerを通じて管理者から支給された6桁の確認コードを使用してサインインします。この6桁の確認コードの有効期限は1年間です。

Apple School Managerの管理者は、Managed Apple IDアカウントをリリースして、生徒、教職員、マネージャーが約180日間利用できるようにすることが可能です。有効期限を過ぎると、そのアカウントに関連付けられたデータはすべて永久に削除されます。学校がManaged Apple IDをただちに削除することをリクエストした場合、アカウントは利用できなくなり、アカウントに関連付けられた情報は40日以内にすべて永久に削除されます。

Managed Apple IDとShared iPad

生徒がiPadを共有する場合は、Appleは生徒がManaged Apple IDでログインしてすばやく各自のアプリケーション、コンテンツ、設定にアクセスして利用できるようにします。これにより、同じiPadを複数の生徒で共有させながら、個別の学習体験を確保できます。

生徒がShared iPadにサインインすると、AppleのIDサーバによってManaged Apple IDが認証されます。生徒がそのデバイスを以前に使用したことがない場合は、その生徒用の新しいホームディレクトリとキーチェーンが作成されます。生徒のローカルアカウントが作成されてロック解除されている場合は、デバイスが自動的にiCloudにサインインします。次に、生徒の設定が復元され、書類とデータがiCloudからシンクされます。

生徒のセッションが有効でデバイスがオンラインになっている間は、作成または編集された書類はiCloudに保存されます。さらに、バックグラウンドで同期する仕組みにより、生徒のサインアウト後、変更内容は必ずiCloudに保存されます。

iCloudとデータセキュリティ

生徒がドキュメントを作成したり、学科に取り組んだり、クラスのアクティビティに参加したりする時、データが安全に保存され、デバイスとiCloudの両方でデータが常に保護されていることが重要です。

iCloudを使用すると、ユーザーのドキュメント、連絡先、メモ、ブックマーク、カレンダー、イベント、リマインダーは自動的にiCloudに保存されるので、iOSデバイスとMac、およびMacまたはWindowsパソコンの*iCloud.com*でそれらの情報にアクセスできます。ユーザーがiCloudにサインインすると、デフォルトでアプリケーションにiCloud Driveへのアクセス権が与えられます。ユーザーは、「設定」の「iCloud」で各アプリケーションのアクセス権を管理できます。Managed Apple IDは上記のサービスについてデフォルトで有効化されています。

iCloudは業界標準のセキュリティ手法に従って構築されており、データを保護するための厳格なポリシーを採用しています。iCloudでは、ユーザーのデータを保護するために、インターネット経由で送信する時はデータを暗号化し、サーバに保管しておく間は暗号化された形式で保存し、認証にはセキュアトークンを使用します。すなわち、生徒のデータは、デバイスに送信されている時もiCloudに保存されている時も、不正アクセスから保護されます。iCloudは、128ビット以上のAES暗号化を採用しています。これは、大手金融機関で使われているものと同じレベルのセキュリティです。また、暗号鍵をいかなるサードパーティにも提供しません。Appleは、自社のデータセンターにおいて暗号鍵を保持します。また、生徒のパスワードと資格情報は、Appleが読んだりアクセスしたりできない方法でiCloudに保存されます。

iCloudのセキュリティとプライバシーの詳細については、<https://support.apple.com/ja-jp/HT202303> を参照してください。

CloudKitと他社製アプリケーション

他社製アプリケーションは、現代の学習環境において不可欠な要素です。他社製アプリケーションを使う場合でも、共通のシームレスな体験として生徒がデータの保存や取得ができるように、AppleはCloudKitを開発しました。他社のデベロッパは、iCloudへのデータの保存とiCloudとのシンクを行う時にこのフレームワークを使用できます。

CloudKitを使用するアプリケーションではApple IDで自動的にサインインできるので、生徒は新規のアカウントを作成したり、追加の個人情報を提示する必要はありません。そのため新しいユーザー名やパスワードを覚える手間をかけずに、アプリケーションにある最新情報にいつでもアクセスできます。デベロッパがアクセスするのはユーザー個々の識別子だけで、生徒のApple IDにはアクセスできません。

デベロッパがCloudKitを使っているかどうかにかかわらず、他社製アプリケーションが生徒に関するデータを収集する可能性があることを認識することが重要です。他社製アプリケーションを使用する場合、学校にはすべての適用法令を遵守する責任があります。学校は、他社製アプリケーションの使用条件、ポリシー、慣行を確認し、生徒から収集するデータの種類、収集したデータの使用方法、保護者の同意が必要かどうかについて理解する必要があります。

AppleはApp Storeにおいて、アプリケーションデベロッパのみなさんに、ユーザーのプライバシーとセキュリティを保護する目的で作られた明確なガイドラインへの同意を要求しています。このガイドラインに違反するアプリケーションをAppleが見つけた場合、デベロッパはその問題に対処しなければなりません。対処されない場合、そのアプリケーションはApp Storeから削除されます。

位置情報サービスと紛失モード

生徒がデバイスでアプリケーションやサービスを使用していると、そのアプリケーションやアプリケーション内の操作に応じ、位置情報サービスを有効にするように求められることがよくあります。Appleは、位置情報データの管理方法やアプリケーションおよびクラウドサービスとの共有方法について、ユーザーが細かく設定できるようにしています。

位置情報サービスを有効にすると、マップ、天気、カメラなどの位置情報を活用するアプリケーションは、位置を示すデータを収集したり利用したりすることができます。Appleが収集する位置情報データは、生徒を個人的に特定する形で収集されることはありません。位置情報サービスはデフォルトでオフになっていますが、「設定」内のスイッチでオンにできます。それぞれのアプリケーションが位置情報サービスを利用する許可を求めてくるので、生徒は、アプリケーションごとにアクセスを許可できます。

iPadでアプリケーションが位置情報サービスを利用している場合は、メニューバーに矢印のアイコンが表示されます。アプリケーションの使用中に限定して位置情報データの利用を許可することも、常に許可することもできます。このアクセスを許可しない場合は、「設定」で変更できます。許可の設定は、アプリケーションが要求する位置情報の用途に応じて、許可しない、使用中のみ許可、常に許可のいずれかに設定できます。また、位置情報を使用する許可を与えられたアプリケーションがバックグラウンドモードでこの許可を利用する場合は、ユーザーが許可していることが警告されるため、必要に応じてアプリケーションへの許可を変更できます。

位置情報サービスは、紛失または盗難に遭ったデバイスの回収にも役立ちます。iOS 9.3以降を搭載する監視対象のデバイスであれば、MDM管理者はリモートで紛失モードを有効にできます。紛失モードが有効になると、現在のユーザーはログアウトされ、デバイスのロックを解除できなくなります。画面には、デバイスを見つけた人が連絡するための電話番号など、管理者がカスタマイズできるメッセージが表示されます。デバイスが紛失モードになると、管理者はデバイスに対して現在の位置情報をMDMサーバに送信するようリクエストできます。管理者がデバイスの紛失モードをオフにした場合もデバイスの位置情報は送信され、ユーザーにはこのアクションが通知されます。

診断データ

学校および生徒がAppleの製品とサービスの品質向上にご協力いただける場合は、診断と使用状況プログラムを有効にすることで、デバイスとアプリケーションに関する情報を、個人を特定できない形でAppleに送信できます。

これを有効にするには、明示的な同意が必要です。ユーザーは送信したデータをデバイス上で見ることができます。または、「設定」からいつでもデータ送信を停止することもできます。Shared iPadを導入している場合、学校が機能制限を設定することで、診断と使用状況のデータの送信を無効化できます。

iOSはまた、デバイスの問題のデバッグやトラブルシューティングに役立つ高度な診断機能も搭載しています。これらの高度な診断機能が、追加ツールや明示的な同意を得ることなしに、Appleにデータを送信することは一切ありません。

国際データ転送

Appleは、学習に最適なツールを教師のみなさんが教室で利用できるように、世界中の学校と協力しています。

Apple School Manager、Managed Apple ID、iTunes U、およびiCloudを使用する場合、個人データが国外に保管されることがあります。どこに保管されようとも、データには共通の厳格なデータ保管の水準と要件が適用されます。

欧州経済領域またはスイスから米国に転送された個人データには、Appleが認証を取得しているすべての有効なセーフハーバープログラムあるいはその後継プログラム、またはApple School Manager契約に追記されたモデル契約条項/Swiss Transborder Data Flow Agreementのいずれかが適用されます。

関連資料

Appleにとって、学校と生徒の信頼は何よりも重要です。だからこそ私たちは、生徒のプライバシーを尊重し、すべてのデータの取り扱い方法を規定する厳格なポリシーによってプライバシーを保護しています。

詳細については、以下の関連資料をご参照ください。プライバシーについてご質問がある場合は、いつでも www.apple.com/jp/privacy/contact から直接お問い合わせください。

あなたのプライバシーに関するAppleの取り組み: www.apple.com/jp/privacy/

Appleと教育: ITと導入 www.apple.com/jp/education/it/

Apple School Manager契約: www.apple.com/legal/education/apple-school-manager/

Apple School Managerヘルプ: help.apple.com/schoolmanager/

教育用導入ガイド: help.apple.com/deployment/education/

iOSセキュリティガイド: www.apple.com/business/docs/iOS_Security_Guide.pdf (英語)



© 2016 Apple Inc. All rights reserved. Apple, Appleのロゴ, Apple Pay, FaceTime, iMessage, iPad, iTunes U, Mac, Siri, Spotlight, Touch IDは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。HomeKitはApple Inc.の商標です。iCloudおよびiTunes Storeは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.のサービスマークです。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。iOSは、米国および他の国々で登録されたCiscoの商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。本書に記載されているその他の製品名および会社名はそれぞれの会社の商標である場合があります。製品仕様は予告なく変更される場合があります。2016年5月